

1. アンケート結果を踏まえた事務局案（医薬品）【第1回WG後】

1. 内用薬

(1) 追加

*アンケートに追加削除の理由が記載されていたものには「アンケートによると」と記載。

WHO推奨品目がある場合はその旨記載。

第1回WGにおいて、特に議論をお願いしたい項目として議論したものを抜粋。

提案された薬剤				事務局案*	薬効分類	備考（商品名例）
No	分類	品名	表			
4	化学療法剤 合成抗菌剤	ニューキノロン系薬	丙	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューキノロン系抗菌剤は、AMRアクションプラン（R5.4.7）でフルオロキノロン1日使用量30%削減目標、適切かつ慎重な使用の推進を図るとされている。医師/衛生管理者不在の丙種に追加してよいか検討を要する。なお、No54のマクロライド系もAMRの問題あり。 ・商品名例の日本標準商品分類は「ピリドンカルボン酸系製剤」薬効分類は「広範囲経口抗菌製剤」「キノロン系経口抗菌剤」一般名は「レボフロキサシンメシル酸」「ガレノキサシン水和物」。 →検討した上で必要との判断に至れば「ニューキノロン系抗生物質製剤」を追加 → 追加 	6241	クラビット、ジェニナック
17	中枢神経系用薬 その他の中枢神経系用薬	オレキシン受容体拮抗薬	丙	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると「睡眠薬としては、ベンゾジアゼピン系の使用推奨が低下。その代替りの薬剤」との意見 ・現行、丙に睡眠薬はない →丙にも睡眠薬が新たに必要との判断に至れば追加 → 「睡眠改善薬」を追加 		

(2) 削除

31	中枢神経系用薬	精神神経用剤	精神神経用剤	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると「精神科医が使用するもの」との意見。 ・一方で乙に精神神経剤に分類される「クロチアゼパム」の追加意見あり（No7）、乙に追加する場合、甲にも追加。 ・WHO推奨に精神神経用剤(23ハロペリドール,精神病・強い不穏)があり。現行甲の催眠鎮静剤・抗不安剤と新たに追加意見のあった「クロチアゼパム」で対応可能か検討。 →甲に「クロチアゼパム（5mg）」を追加 → 「精神神経用剤」をそのまま残す 	117	コントミン、塩酸イミプラミン、トフラニール、レフサプロ
32			クロルプロマジン製剤(12.5mg)	乙	<ul style="list-style-type: none"> アンケートによると精神科医が使用するもので、船上で使用するにはやや強い作用でリスクがある」との意見。 ・WHO推奨対象に精神神経用剤(23ハロペリドール,精神病・強い不穏)があるが、現行のジアゼパム製剤・追加案での対応可能であるか検討が必要。 →検討した上で不要であれば削除。 → 削除 	1171	コントミン
33		解熱鎮痛消炎剤	サリチル酸系製剤	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・アセトアミノフェン(No8-11)追加に伴い、削除意見あり。 	1143	アスピリン、パファリン
34				乙	<ul style="list-style-type: none"> ・WHO推奨（1アセチルサリチル酸）は、主に血栓対応。抗血小板薬として第一選択となっているため、削除 		
35				丙	<ul style="list-style-type: none"> には検討が必要。 		
36				丁	<ul style="list-style-type: none"> →検討した上で不要であれば削除 → 削除 		
45	消化器官用薬	健胃消化剤	健胃剤	丁	<ul style="list-style-type: none"> ・丁は沿海区域・平水区域を航行する船舶であり、サリチル酸系製剤（アスピリン等）、アセトアミノフェン（カロナール等）、アトロピン系製剤（ブスコパン等）に加えて健胃剤が最低限必要なものといえるか検討が必要。なお、丁には止瀉剤を効能とする薬の備付け義務もない(事務局案) →検討の上、必要なければ削除 → 削除しない 	2,339	健胃錠、大正漢方胃腸薬、タケダ漢方胃腸薬、新センロック

(3) 変更等

60	抗生物質製剤	抗生物質製剤	エリスロマイシン製剤(200mg) → マクロライド系抗生物質製剤 (200mg)	丙	・ AMRアクションプラン (R5.4.7)で1日使用量25%削減目標、適切かつ慎重な使用の推進を図るとされている。なお、No4のニューキノロン系もAMRの問題あり。 →検討した上で必要との判断に至れば「マクロライド抗生物質製剤(200mg)」に変更。不要であれば削除。 → 「マクロライド系抗生物質製剤」に変更		
71	消化器官用薬	健胃消化剤	健胃剤	丙	・ アンケートによると「健胃剤又は消化酵素製剤どちらかでよい」との意見 ・ 乙・丙は健胃剤・消化酵素剤を備えることになっているため、丙だけでなく乙も合わせて検討。丁は健胃剤のみが選択。仮に健胃剤よりも消化酵素剤を選択すべきであれば、丁は健胃剤のままでの検討が必要。 →乙・丙について「健胃剤」のみに変更 (=消化酵素剤を削除) → どちらも残す	2339	健胃錠、大正漢方胃腸薬、タケダ漢方胃腸薬、新センロック
72			消化酵素製剤 → 削除	丙		2331	新タカザア、タフマックE

2. 注射薬

(1) 追加

No	分類		品名	表	事務局案	薬効分類	備考（商品名例）
78	血液・体液用薬	抗プラスミン薬	トラネキサム酸 (1000mg/10ml)	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・現行告示の「止血剤」に含まれる ・止血剤を「トラネキサム酸」に限定する趣旨である場合、「止血剤」を「トラネキサム酸」に変更が必要。 →後者の趣旨が確認されない限り追加しない。なお、甲を変更する場合、乙の止血剤も合わせて修正。 → 変更（追加）しない 	3327 449	トランサミン

(2) 削除

82	抗生物質製剤	抗生物質製剤	テトラサイクリン系抗生物質製剤	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると「使用頻度少ない」との意見 ・WHO推奨(17ドキシサイクリン,感染症)。適応菌種はブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、肺炎桿菌、ペスト菌、コレラ菌、ブルセラ属、Q熱リケッチア（コクシエラ・ブルネティ）、クラミジア属。 ・添付文書に「点滴静脈内注射は、経口投与不能の患者及び救急の場合に行い、経口投与が可能になれば経口用剤に切り替える →他の抗生物質で対応可能か検討し、不要であれば削除。必要であれば、内用薬への変更を検討。 → 削除 	6152	ミノマイシン
84	中枢神経系用薬	催眠鎮静剤及び抗不安剤	催眠鎮静剤	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると「麻酔時に用いるもの」との意見 ・甲には局所麻酔剤あり。 ・フェノバル（商品例）はてんかん発作としても承認あり(1134)。WHO推奨にてんかん発作対応のためミタゾラム（33）があるが、てんかん発作は他の薬剤で対応可能か。 →後者について検討した上で不要との判断に至れば削除 → 「抗てんかん剤」として「フェノバルピタール」に変更 	112	フェノバル
85		催眠鎮静剤	バルピツール酸系製剤	乙	<ul style="list-style-type: none"> →後者について検討した上で不要との判断に至れば削除 → 「抗てんかん剤」として「フェノバルピタール」に変更 	1125	

II. アンケート結果を踏まえた事務局案（医療衛生用具等）【第1回WG後】

1. 医療衛生用具

(3) 変更等

第1回WGにおいて、特に議論をお願いしたい項目として議論したものを抜粋。

提案された医療衛生用具等				事務局案
No	分類	品名	表	
69	検査用具	赤血球沈降速度測定器	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・自動血球計数装置・CRP測定装置の普及により、用手法から自動分析法に変化しているが、臨床検査技師不在の船内で医師の実施が想定されるか検討が必要。自動装置は高額であることも考慮。(事務局) →変更・代替可能なものがあるか検討。検査実施が想定されない場合は削除。 → 「赤血球沈降速度測定器」のみ削除
70		血球算定用具	甲	
71		血色素測定具	甲	
72		数取り器	甲	

2. その他

(1) 追加

74	その他	創傷被覆材	甲	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると「創傷処置に必要」との意見 ・WHO推奨(10,粘着ドレッシング) ・丙・丁は不要か合わせて検討。 → 甲～丁すべて追加
75			乙	